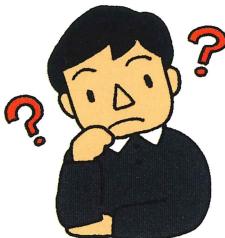


なるほど ぶつじ 仏事

第6回

おつとめ



じょう ど しん しゅう ほん がん じ は びん こ きょう く
淨土真宗本願寺派備後教区
き かん うん どう すい しん い いん かい
基幹運動推進委員会

おつとめ

「おつとめ(勤行)」は、仏さまを
敬い(仏徳讃嘆)、仏さまにお
礼(報恩感謝)をする門信徒と
してのたしなみです。

毎日のおつとめ(勤行)はもち
ろん、お寺の法座へのお参りや
各種行事への参加も、私たち
の「つとめ」といえるでしょう。



日常のお勤め

にちじょうごん
本願寺出版社より刊行されている「日常勤
ぎょうせいてん 行聖典」を中心におつとめしましょう。

ぶつせつあみだきょう
仏説阿弥陀經
しょうしんねんぶつげ
正信念仏偈
さんぶつげ
讚仏偈
じゅうせいげ
重誓偈
じゅうにらい
十二札



…等

じょうどさんぶきょう
淨土三部經

淨土三部經はお釈迦さまが説かれた
『仏説無量寿經』『仏説觀無量壽經』『仏
説阿彌陀經』の三つのお經で、阿彌陀
如來の間違いのない救いが説かれてい
ます。淨土真宗のみ教えの根幹とな
る最も大切なお經です。

日常のおつとめは、すべて淨土三部經
を依りどころとしています。

お仏飯



炊きたてのご飯をお供えし、おつとめが終わればお下げして、みんなで頂きましょう。

蠟燭(灯明)



ろうそくの火はおつとめが終われば口で吹き消さず、必ず灯明消しなどを使って消しましょう。

おつとめの作法



①お仏壇をお莊嚴



②合掌・礼拝



③お経本を頂く



④鑿(きん)を打つ



⑤おつとめ



花は四季おりおりのものをお供えしましょう。とげや毒のある花、造花などは用いません。

香



線香を香炉の大きさに合わせて短く折り、横にしてお供えしましょう。



⑥お経本を頂く



⑦合掌・礼拝

お経本は頂いて



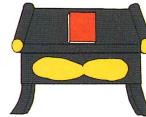
お経本を開く時、閉じる時は頂きましょう。

鑿はおつとめをする時に



鑿を打つ箇所はお経本に「鑿〇声」または〇印で表してあります。おつとめする時以外は打ちません。

お経本は大切に



お経本は畳の上や床などに置かず、経卓に置きましょう。